



第27回 樽池サイクル（6月26日）  
中高年から小谷中学生が走る！

議長就任挨拶・議会構成……………②

6月定例議会・村長提出議案……………③

6月定例議会・請願・陳情の審査結果・議員発議・臨時議会……………④

総務・経済委員会活動報告……………⑤

定数等調査特別委員会……………⑥

一般質問「地方分権について」など村政を問う……………⑦～⑬

わたしのひとこと（丸山 理矢さん・森川 昇さん）……………⑭

# 議長就任挨拶

議会議長 北村 利幸



5月の臨時議会において、議員皆様方の推挙により議長の要職に就くことになりましたことは、身に余る光栄であり、この重責を痛感しております。

議会は、行政の事業が公正・効率的に執行されているかチェックする重要な機関であり、村の将来を見据え、適度な距離を保ちながら、村民福祉の向上と小谷村の発展のために議論を深めてまいります。

さて、今年度は、小谷村第5次総合計画後期計画がスタートしました。

併せて国の地方創生に伴う「小谷村人口ビジョン」

と「小谷村総合戦略」も村民の皆様からの意見を取り入れて策定しました。

今年度からは、これらの計画に沿って各種事業を実施するとともに実施状況を定期的に検証し、小谷村の重要な課題である人口減少や高齢化対策、雇用の創出、観光の振興等に成果が求められます。

4月1日から機構改革により特産推進室が一課一係体制でスタートしました。

集落支援・地域おこし協力隊員・地域づくり応援団の配置により集落支援・地域協力活動に取り組むとともに、「新たな地場産業・雇用の創出」に向けて、加工・貯蔵施設等の整備が進められます。

地域高規格道路「松本系魚川連絡道路」安曇野北インター（仮称）から大町市

街地南までの計画案が長野県から1月に公表され、6月に住民意見募集結果が公表されました。

厳しい意見もあります。が、村民の命をつなぎ、生活を守る道として工事促進に向けた活動を進め、関係機関に強く働きかけてまいります。

議会では、「議員定数等調査特別委員会」で調査を進めてきた、議員定数を現在と同じ10名としました。

当村の人口減少・少子高齢化が急激に進むなかで、議員定数の研究、情報公開をさらに進めるよう議会改革を検討してまいります。

村民皆様方のご意見を賜りながら、信頼と期待される議会運営に取り組んでまいりますので、村議会の活動に一層のご指導と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 議会構成

5月の臨時議会において、議会構成が変わりました。

議長	北村 利幸
副議長	横澤 かつ子
総務委員会	
委員長	高橋 正宏
副委員長	猪股 充拓
委員	小池 利治
	太田 武彦
	北村 利幸
経済委員会	
委員長	宮澤 正廣
副委員長	曾根原 恵子
委員	藤原 賢司
	横澤 かつ子
	鷺澤 仁
監査委員	宮澤 正廣
消防委員	猪股 充拓
	小池 利治

国保運営協議会委員

委員 高橋 正宏  
" 小池 利治

北アルプス広域連合議会

議員 北村 利幸  
" 横澤 かつ子

白馬山麓環境施設組合議会

議員 猪股 充拓  
" 高橋 正宏  
" 北村 利幸  
" 横澤 かつ子

議会だより編集委員会

委員長 猪股 充拓  
副委員長 曾根原 恵子  
委員 宮澤 正廣  
" 高橋 正宏  
" 小池 利治



## 6月定例議会 村長提出議案

専決処分報告（承認：全員賛成）	内 容
損害賠償の和解並びに額を定めることの報告	交流センター（ちゃんめろ）屋根雪落下に伴う車両破損
27年度 一般会計補正予算（8号）	2,700万円を追加し、総額を54億8,400万円とする。
27年度 国保特別会計補正予算（4号）	790万円を減額し、総額を4億3,570万円とする。
27年度 国保診療施設特別会計補正予算（3号）	260万円を減額し、総額を8,740万円とする。
27年度 簡易水道特別会計補正予算（5号）	880万円を減額し、総額を1億6,930万円とする。
27年度 公共下水道特別会計補正予算（3号）	70万円を減額し、総額を8,670万円とする。
27年度 農集排特別会計補正予算（4号）	70万円を減額し、総額を7,660万円とする。
27年度 後期高齢者医療特別会計補正予算（2号）	20万円を減額し、総額を3,470万円とする。
村税条例等の一部を改正する条例	行政不服審査法、地方税法改正に伴う字句の改正
27年度 一般会計明許費繰越報告	加速化交付金、復興住宅、橋梁維持、災害復旧費等20事業 6億2,694万3千円を繰越し。
27年度 簡易水道特別会計明許費繰越報告	中土水道、中谷西災害工事也 753万円を繰越し。
出資法人の経営状況報告「㈱道の駅おたり」	売り上げは3億36万9千円で昨年比107%
〃 「㈱おたり振興公社」	全社での売り上げは2億307万円で前年比110%
27年度 教育委員会事務事業の点検及び評価報告	より充実した教育行政を図っていきたい。

条例案・予算案・事件案	議決結果
村税条例等の一部を改正する条例 法人税率（法人割）9.7%～6.0% 軽自動車税を廃止→環境性能割の創設（29年度～）地方税法改正に伴う字句の改正	可決（全員賛成）
特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 学校評議員→おたり学校園運営委員会の委員	可決（全員賛成）
消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例 公務災害補償率の変更	可決（全員賛成）
28年度 一般会計補正予算（2号） 伊折水路トンネル災害復旧工事追加等 3億2,400万円を追加し、総額を53億7,800万円とする。	可決（全員賛成）
28年度 簡易水道特別会計補正予算（1号） 中土水道 追加工事 150万円 1,340万円を追加し、総額を2億6,850万円とする。	可決（全員賛成）
村道路線の廃止 村道山の神線・村道反立線を廃止	可決（全員賛成）
村道路線の認定 村道山の神線・村道反立線を変更して認定	可決（全員賛成）
売買契約の締結（稲場住宅）長野県住宅供給公社6,281万円 木造2階 1棟2戸	可決（全員賛成）
28年度 小谷村一般会計補正予算（第3号） ふるさと応援寄付金の増ほか。 既定の歳入歳出予算に4億2,400万円を追加し歳入歳出予算の総額を58億200万円とする。	可決（全員賛成）
売買契約の締結（除雪ロータリー220kW級1台購入） 4,482万円 ㈱糸魚川重機工業	可決（全員賛成）
工事請負契約の締結（梅池ビジターセンター改修工事） 5,551万円 ㈱鷺澤建設	可決（全員賛成）

## 6月定例議会議案に対する主な質疑・説明等

問・説明事項	回答・説明
● ふるさと応援寄付金事業、度々の追加は。	◆ 寄付の申込が想定以上、返礼品を追加する。
● // 寄付は田舎の人からも来るか。	◆ 来る。自治体間の競争が激化している。
● 保健衛生費、委託料追加は。	◆ 妊婦の歯科検診等の委託料。
● 眺望の郷、看板取替内容は。	◆ 看板15～6カ所、経年破損しているので取り替え。
● 白馬高スキー補助金追加は。	◆ 対象者が、5名から8名になったため。
● 災害復旧費、1億円余の追加は。	◆ 伊折の水路工事の追加等。トンネルの仕様変更、出口上部の危険な岩の撤去等で追加。

## 請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	「緊急事態基本法」の早期制定を要望する意見書提出を求める陳情	アジアと日本の平和と安全を守る 長野県中南信フォーラム 事務局長 林 秀彦	採 択 (賛成多数)
総務委員会	年金積立金の安全かつ効率的な運用に関する意見書の採択を求める陳情書	全日本年金者組合 長野県大北支部 支部長 井川 恵右	趣旨採択 (賛成多数)
経済委員会	TPPに関する情報開示の徹底と持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める陳情書	大北農業協同組合 代表理事組合長 山田 高司	採 択 (全員賛成)
経済委員会	国に対し、消費税率10%への増税中止を求める陳情書	北アルプス民主商工会 会長 種山 博茂	不採択 (賛成多数)
経済委員会 (継続)	除雪作業に関する陳情書	小谷村建設業組合 組合長 山原 登	趣旨採択 (全員賛成)

## 議員発議

件名	採択結果
緊急事態基本法の早期制定を求める意見書 平時の緊急事態に対して、初動態勢の不備を補う「緊急事態法」の制定がなされていないので、早急に制定するよう要請する。	採 択 (賛成多数)
TPPに関する情報開示の徹底と持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める意見書 政府は、TPP協定承認案及びTPP関連法案の審議において、国民の不安や懸念が払拭されるよう、十分な情報開示や将来を見据えた農業政策の確立に向けた審議を要請する。	採 択 (全員賛成)

## 5月16日 臨時議会

件名	内 容	議決結果
一般会計補正予算 (1号)	1億7,400万円を追加し、総額50億5,400万円。 熊本への支援金1,000万円、ふるさと寄付返礼5,000万円 道路改良1,200万円、橋梁維持2,140万円、他	可 決 (全員賛成)

# 委員会活動報告

## 総務委員会

塩の道の会&森林セラピー  
インストラクターの会と懇談

4月26日 (小谷村)

両会員からの活動報告があり、フリートークをする。村づくりと一体で進める課題があり、両会員と地域住民・議会・行政の協働で取り組む必要がある。

(前委員長 小池 利治)

社会福祉協議会評議委員会

5月25日 (小谷村)

27年度の事業報告。介護報酬引き下げ、利用者の減少で、大幅な減収。抜本的な対策が必要と思われる。

白馬山麓環境施設組合

臨時議会

6月23日 (白馬村)

小谷村の議会構成変更に伴い、監査委員の選任、および補正予算の専決報告。

中学生台湾交流事業下見

6月29～7月2日 (台湾)

小谷中学校海外交流研修事業(台湾彰化懸ほか訪問)の交流先である二水中学校の下見と打ち合わせに同行。空路は2時間程の所要時間だが、交流・体験・見学と内容が豊富で、小谷を出発・到着共、深夜。

1月には、台湾から中学生が来村し雪を体験予定。

(委員長 高橋 正宏)



台湾最古の龍山寺のおみくじ体験

## 北陸視察

(両委員会)

NPO法人による

地域バス運行を視察

4月20日 (富山県氷見市)

地域バスを運行している、NPO法人を視察。

路線バス廃止に伴い、地域の活性化協議会が所有するマイクロバスでスクールバスを兼ねて運行。乗車運賃がなく、補助金の他に距離別年会費制で、車2台・運転手4人で運営。大変参考になる事例と思われる。

輪島市観光政策等を視察

4月21日 (石川県輪島市)

市担当者により、防災組織の運営、6次産業化によるワイン作り、街なみ環境整備事業、棚田サミットが行われた「白米の千枚田」等を視察。

のと鉄道視察

4月21日 (石川県七尾市他)

観光列車に特化し乗客増の「のと鉄道」に体験乗車。

## 経済委員会

梅池自然園開園祭

6月1日 (小谷村)

今年は残雪がなく、2週間早くミズバショウの見ごろを迎えた。今期も天候に恵まれ、多くの来園を祈願し、神事が斉行された。

地熱エネルギー視察

6月1日 (小谷村)

80度のお湯が噴出している状況を視察し、今後の研究課題を担当者より説明。再利用の可能性についてはまだ調査段階。

ホタル公園完成

6月1日 (小谷村)

県のほ場整備工事とともに、ホタル公園が整備された。

地域の熱心な取り組みで、見事に虫が復活。多くの村民に見ていただきたいとのこと。全地区基盤整備の完了は、平成30年を予定。



ホタル舞う

松川生ごみ処理施設視察

6月14日 (松川村)

G・フレンドリーで、白馬村の学校給食・松川村内保育園等の生ごみを回収し、堆肥化・ボカシ・豚の飼料として再生し、農業生産に利用。電力熱で乾燥させるシンプルな設備。



生ごみ処理機

(委員長 宮澤 正廣)

# 定数等調査特別委員会

「議員定数は現状の10人で」

平成26年6月、議員定数等の調査を付託され、14回にわたり委員会を開催した。その間、村民アンケート等実施し、一定の結論を得たので本定例会において報告し、賛成多数により承認された。結論は次のとおり。

◎「現在の条例定数である10人とする」が賛成多数で承認された。

## 決定の事由

- ① 村民アンケートにおいて、定数10人以上の声が3分の2以上を占めていること。
- ② 村民のご意見でいただいた叱責、期待感等を鑑み、より充実した議会活動が必要であること。
- ③ 第5次総合計画（後期）や総合戦略の遂行のため

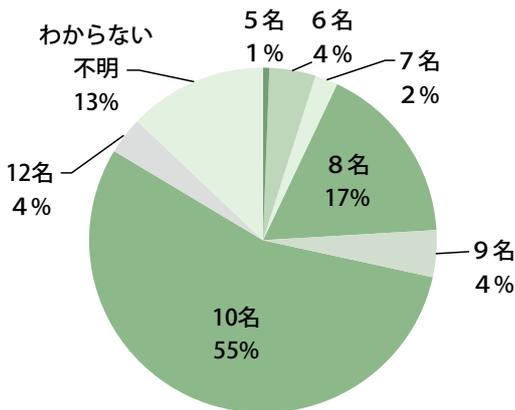
議会の機能強化が必要であること。

④ 地域コミュニティ維持こそ大きな課題である現在、地域バランスや村民意見をより村政に反映することが必要であること。

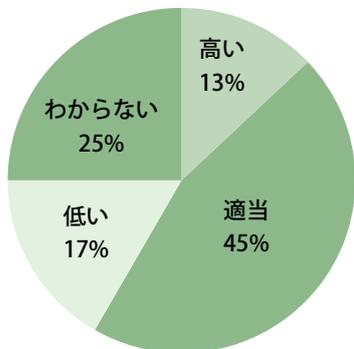
⑤ 今後、議員定数を含む議会のあり方について検討を重ね、村民の期待に応えることが必要である。

（委員長 太田 武彦）

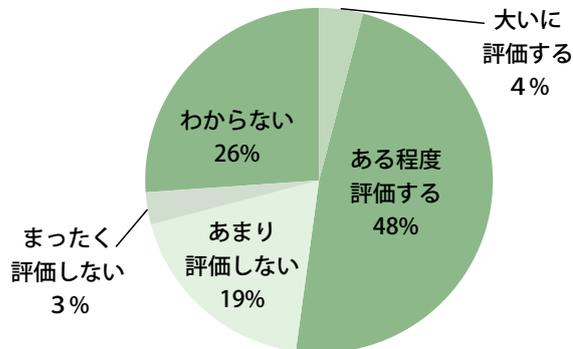
具体的な定数は何人が適当だと思いますか



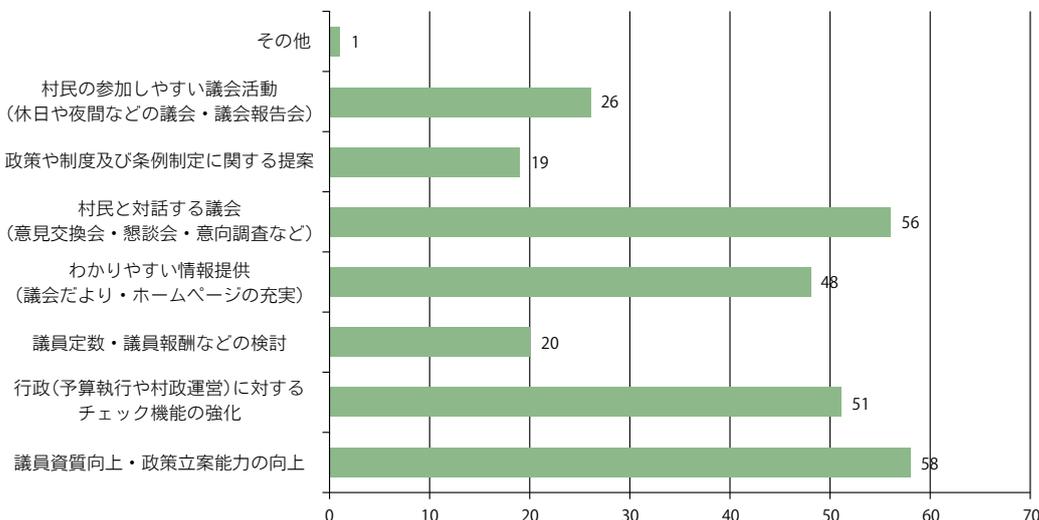
議員の報酬月額について、どう感じますか



現在の村議会をどのように評価しますか



議会に何を求めますか（複数回答可能）



# 地方分権について



藤原 賢司 議員

がある。それを担う意思決定の取り組みをどう作るのか。

**答** 村長 財政事情を考  
え、計画の中の項目  
に優先順位を付け、課長会  
議等で優先順位を決定し進  
めている。P（計画）、D（実  
行）、C（確認）、A（行動）  
を用いて、定期的に検証す  
る審議会を設置し、計画・  
実施・評価・改善の4段階  
を順次行つて、優先順位を  
つけ実施したい。

**問** 村民や事業者が行政  
に参加する「住民自  
治」の体制作りが重要では  
ないか。

**答** 村長 村民や事業者  
が行政に参加する体  
制づくりの計画はないが、  
「住民参加型の体制づくり」  
を目指している。また、地  
域おこし協力隊や集落支援  
員を配置し、地域協議会で  
地域の方向性を住民が出し  
たら、村はその目的の達成  
のための施策の展開をして  
いく考えであるが、これも  
住民自治の在り方の一つで  
はないかと思う。

**問** この先財源不足か  
ら、歳入の確保と歳  
出の優先順位を付ける必要

情を考えた各種補助金制度  
があるが、これからもうい  
ろんな施策を展開し条例の  
制定や新たな基準を作り、  
住民ニーズに添えていきた  
い。

## 総合戦略について

**問** 計画理念を具現化す  
る総合戦略条例の整  
備が必要と思うが。

**答** 村長 状況に応じて  
条例整備が必要にな  
った場合は整備したい。

**問** 総合戦略の内容によ  
つては、他の自治体  
相互間で「縦割りの弊害」  
が生じないように、柔軟な  
つながりを育てていくこと  
が必要と思うが考えは。

**答** 村長 自治体間の行  
つている広域連携に  
は、3市村観光連絡会、大町  
白馬、小谷北アルプス観光  
協会、北アルプス連携自立  
圏などがある。

これらが現在取り組んで  
いる事業の他、5市町村が  
対等な関係のもと、相互に

役割分担して連携を図ると  
ともに、共同し、または補  
完し合いながら事業に取り  
組み、個々の資源を活かし、  
魅力あふれる地域にするた  
めに連携していく。

## 天然記念物について

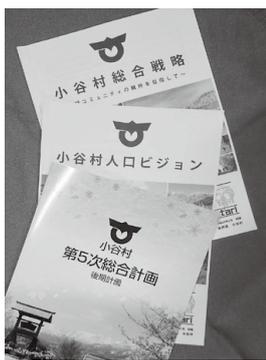
**問** ギフチョウ、ヒメギ  
フチョウが小谷村の  
天然記念物に指定されたが、  
食草についても何らかの規  
制を設ける必要があるの  
はないか。

**答** 教育長 指定後、初  
めてのシーズンとな  
る今年、チョウおよび食草  
の保護や保全をパトロール  
するため、村内の方々に広  
く声掛けし、「小谷ギフチョ  
ウ、ヒメギフチョウを守る  
会」が4月に発足し、大綱・  
姫川温泉地区を中心に30名  
余の会員が交代で監視パト  
ロールを行ってきた。

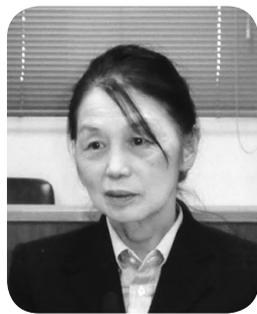
今後、食草を規制する必  
要があるのかないのか、文  
化財保護委員会の意見等も  
聞き対応していきたい。

**問** ギフチョウ、ヒメギ  
フチョウの他にも指  
定対象となる動植物が小谷  
には生息していると思うが、  
小谷村として、それらにつ  
いて今後の対応を考えてい  
るか。

**答** 教育長 天然記念物  
指定に際しての基本  
的な考え方は、希少または  
危急であれば、すべて指定  
するというわけではない。  
保護や保全には限りがあ  
るので、小谷村になじみや  
関係が深く、多くの村民の  
方々が後世に残したいと思  
えるものに絞って指定対象す  
べきと考えている。併せて、  
公民館講座などでも学習会  
を開催して、村民の皆さん  
に保護の機運を高めていく  
取り組みが必要と考えてい  
る。



# 生活支援と 福祉事業所の連携



曾根原恵子 議員

## 日常生活支援は ヘルパーの専門職

**問** 介護・福祉サービス  
の機能集約とは、具  
体的にはどのように進める  
のか。

**答** 村長 コーディネー  
ターの役割割りを担当  
う部所でワンストップサー  
ビスができる仕組み。現在  
検討中だ。今年度は利用者  
の要望を聞き取り調査をす  
る。

**問** 来年度からはじまる  
新しい総合事業では  
「日常生活上の軽度な支援」  
は、ヘルパーのような専門

職でない人の派遣も認めら  
れる。今までの介護保険サ  
ービスと同様に専門職で行  
うべきでは。「訪問介護は単  
なる家事代行ではなく専門  
性のある仕事だ」という介  
護現場の声がある。

**答** 村長 制度改正で村  
に移行するサービス  
については関係事業者と検  
討中だ。軽度者へのサービ  
ス緩和はあっても、適切な  
対応をする。

## 介護事業所に支援を

**問** 国の介護報酬引き下  
げにより小規模介護  
事業所の運営が厳しいと認  
識しているとのことだが、  
その後、事業所の実態や処  
遇について調査をしたか。  
介護現場で働く若者の処  
遇改善は急務だ。

**答** 村長 今後の事業の  
あり方、方針を決め  
るよう指示したところだ。  
事業継続に必要な支援は、  
実態に即し効果的に行う。

## 地域公共交通総合計画を

**問** 村民参加の交通政策  
を、村づくりと一体  
で進める必要がある。  
整備計画についての考え  
は。

**答** 村長 村営バス・デ  
マンドタクシーを充  
分利用していただける運行  
ができていない状況だ。課  
題が山積しており、担当課  
で事業の抜本的な見直しを  
行う。「地域交通網形成計  
画」には補助金の交付があ  
るので、協議会設置や計画  
策定を考える。

**問** 福祉政策と一体の交  
通システム、高齢者  
の生きがいを支える交通手  
段の仕組みを求める。

## 移動手段と「生きがい」

**答** 村長 デマンドシス  
テム改善は「小さな  
拠点構築事業」の中で、交  
通弱者の移動手段として検  
討する。

## 教育と公共交通

**問** 子どもの教育を支え  
る安全なスクールバ  
スの運行をどのように進め  
ているか。

**答** 村長 安全確保には  
「ふれあい番所」で  
の見守り、園児の乗降車は  
乗務員1名を配置してい  
る。児童生徒の体力づくり  
のために塩水で下車し歩い  
て登校している。放課後の  
習い事等は村営バス利用と  
している。

## 歩いて楽しい村

**問** 歩道・自転車道を整  
備し、バス・大系線  
など公共交通を充実させて  
「歩いて楽しい村」を実現す  
るよう提言する。

**答** 村長 国道の一部を  
除き、県道・村道の



下校のスクールバスの時間だよ

歩道・自転車道が未整備だ  
が、観光客が公共交通・自  
転車・徒歩を組み合わせて、  
村内をのんびりと満喫して  
いただくための取り組みを  
始めている。  
**問** 公共交通を総合的に  
見直し、運営経費が  
十分生かされて村民に有効  
に利用されているか、事業  
目的を果たすために検証が  
必要では。  
**答** 村長 現行では最低  
限の移動には対応し  
ている。8千7百万円の予  
算だが、すべての方の満足  
と充実への対応は不可能に  
近い。

# 地域高規格道路「松本糸魚川 連絡道路」の今後について



猪股 充広 議員

**問** 大北地域の皆さんには待ちに待った待望

の地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」に関する説明会が1月29日にあったが、今現在までの松糸道路に関するその後の進捗状況を問う。1月29日の説明会では安曇野北IC（仮称）から大町市街地南までとなっていたが、そこから先の白馬・小谷・糸魚川までのルートはどうなっているのか？具体的な話は進んでいるのか？合わせて質問する。

**答** 村長 今年1月29日に、長野県建設部か

ら「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」の安曇野北IC（仮称）から大町市街地南までの約18キロ区間についての道路計画案が公表された。計画によると、現在の長野道安曇野ICの北約3キロの地点に安曇野北IC（仮称）を新設し、北穂高で高瀬川右岸道路の現道に接続し、この間約6キロは、新たに道路を築造。

北穂高から大町市街地南までの間約12キロ区間は、高瀬川右岸道路を改良し、立体交差1か所、約1キロの追い越し車線4か所を設置する。信号機は設けず、原則片側1車線、時速60キロで走行を可能とする計画である。

大町市から糸魚川市間の計画については、大町市および白馬村市街地間なら

びに小谷村雨中地区は、「バイパス案を含め更なる調査検討を行う区間」として位置付けられており、小谷村雨中地区では、一般国道改築事業「雨中・月岡バイパス」として工事を着手している。さらに、大町市街地については、先に公表した計画と密接に係るため、ルート検討を行うための調査にも着手している。

また、現道活用区間のうち、小谷道路の完成により懸案となっている「外沢トンネル」についても、整備検討についての調査が行われている。さらに、糸魚川市においては、新潟県による県道改築事業「西中バイパス」が進められている。「雨中・月岡バイパス」および「西中バイパス」は、将来の地域高規格道路の要件を満たすバイパス事業として進められている。

高速交通網を持たない大北地域、特に小谷村にとっては、救急搬送の時間短縮

や交流人口の増加、経済活動の活性化などを期待する住民悲願の道であり、計画案が示され、建設に向けて一歩踏み出したことは、大変喜ばしいことであり、各所における着実かつ早期の事業促進を望むものである。

## ストップ少子化 子育て環境への支援と充 実について

**問**

出生数は年々減少し、小谷村から移住してしまふ家族も増えている。正直、小谷村の子育て環境は決して良いとは言えず、特にハード面で病院の数が少なく遠い、スーパー・コンビニ・薬局の数も少なく遠い、安心して子ども達を遊ばせることのできる公園がない。

**答** 村長 公園についてより子育ての環境・ハード面の充実が必要だと思いが村長の考えは？

からの村への提案や、オタリンクの皆さんとの会話の中でも要望があった。現在、小学校に併設されている「塩の道公園」が村設置の唯一の公園である。公園内は全面芝生で滑り台・ブランコが設置され、子ども達や家族連れの方々にご利用いただいている。

管理については学校施設の一部として管理され、手の行き届いた公園となっている。公園の増設については、管理面、安全面から考えると「塩の道公園」以外に増やす計画はない。また、子育てに必要なハード面の整備についても現在のところ予定している施設はない。地域や集落として、公園を含む子育て環境に必要な事業の、具体的な要望があれば、村づくり補助金制度などを利用することもできるので、相談していただきたい。

# 人と文化を生み 生きがいのある村づくり



小池 利治 議員

**問** 村での有権者数と、投票への働きかけは。

**答** 村長 小谷村の新たな有権者となる18歳以上20歳以下の若者の数は、53名となる見込みである。若者の投票参加を促すため、県、市町村選挙管理委員会、選挙推進協議会の合同で校内チラシ配布、ホームルーム等において投票の呼び掛けなどの一斉啓発を行っている。

白馬高校では昨年度から卒業生を含め、授業として啓発を行い、今後も実施する予定となっている。

**問**

暮らしを取り巻く困難や地域の課題について住民が学び、共に考え、村づくりを進めるために、社会教育や文化の課す役割が大変大事と思うが考えは。

**答**

村長 社会のさまざまな教育の機能を活用して行われる学習を重視し、どこで学んでも、いつ学んでもその人の学習成果を正しく評価する社会の実現が望まれている。

その成果が適切に評価される社会が、「生涯学習社会」であり、生きがいのある村づくりのためには、自己の充実や啓発も含め、生涯にわたっての学びが大変重要だと考えている。

**問**

主権者教育が重要な課題として注目されているが、現状の取り組みと基本的な考えは。

**答**

村長 文部科学省では「社会の中で自立し、他者と連携、協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を、社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階において身につけさせるもの」と設定しており、社会全体で主権者教育を推進する取り組みとして、「平成28年度中に答申予定の改訂時に小中学校における社会科のあり方について検討する」としている。



地域と共にある学校を

昨年小谷中学校3年生が実施した議会傍聴などが具

体的主権者教育を推進する取り組みではないかと思っ

**問**

保育園から中学まで地域と共にある学校園づくり「信州型CS」。特徴や内容と今後の対策は。

**答**

教育長 少子化に伴い、それぞれの学校での授業展開や部活動などにおいて、子どもたちの活動が限られたり支障が出たりする。このため、保小中が連携し、学校行事やさまざまな活動に地域の皆様から参加してもらって体制作り、地域ぐるみで園や学校支援対応が必要である。また、併せて既存組織の一本化を行い、力の結集を図る。

このような考えから、「保小中12年間の連携教育」を縦軸に、「地域との連携」を横軸とした「おたり学校運営委員会」を立ち上げた。

なお、信州型コミュニティスクールとは、地域住民が、学校運営に参加する、学校を支援する、学校を評

価する、といったことを一体的、持続的に実施していく仕組みである。

**問**

地域の方々や保護者が学校運営に支援していただくことにより、学校、家庭地域が一体となって子どもたちのより良い教育の実現が可能となる。

空き家バンクの活用状況

**問**

今後の進め方は。

**答**

村長 空き家として、紹介できる家屋の確保が課題であり、早い段階での家屋所有者へのアプローチなど集落、地域の課題として住民の皆さんによるバンク登録の声掛けも引き続きお願いする。

小谷村へ移住、定住を希望している方の生活基盤、環境の整備、景観保全などの点から有効であり、村としても運営による家屋所有者と移住希望者のマッチングを引き続き積極的に進めていく。

# 定住人口の増加について



太田 武彦 議員

## 問

定住への大きなハードルは仕事、コミュニケーション、住居である。まず仕事について、

①小谷を何とかしたいという思いの、都会に在住する小谷出身者を核としたプロジェクトを立ち上げ、企画、誘客を組織的に展開し、その活動を強力に支援し、観光産業の隆盛、就労の場の確保はできないか。

②老齡化等の事由により、継業者を希望する場合の橋渡しができないか。

③小谷では一つの仕事で起業することはなかなか難しい。安定的に行うために組織化の支援はできないか。また、一つの仕事で起業す

る場合、起業補助金交付でよしとしないで支援策はないか。

## 答

村長

①観光業の発展が最大の定住人口

増加策と考えており、観光誘客の一助とすべく、「おたりのわ」を立ち上げ、2、015人の方に登録をいただいている。このプロジェクトの立ち上げにはつながらないが、この「おたりのわ」に多くの村出身者が登録してもらい、誘客プロジェクトの核となる人材確保に努める。また、支援が必要であれば対応したいと思う。

②商工会が窓口となり「長野県事業引き継ぎ支援センター」で相談窓口を開設している。また、村観光連盟では、本年から「後継者への事業引き継ぎ」や「後継者がいない」事業者への相談を会計事務所の協力を受け個別相談会など実施する。

③「小谷版小さな拠点」の構築を進める。本年より、医療・福祉・交通・農業・情報通信技術等各分野が連携した仕組みを作り、民間企業が持続的に運営する体制構築や、雇用の場としてのどのような仕事を組み合わせ、ワークシェアでできるか検討する。起業者の組織化もこの中で検討。また、起業業者への支援については、必要に応じて商工会と連携して支援していきたいと思う。

## 問

定住の課題であるコミュニケーション

①地域での支援係制度を構築したらどうか。

②意欲的な地域づくり集団

地域こそ移住定住意欲も駆り立てられるし、必要にさられ、輪にも入りやすく、活躍の場を得られやすい。もっと踏み込んだ地域づくり支援を行ってほしい。

## 答

村長

①小谷村総合戦略の地域支援事業

の中で、「集落サポーターを

受け入れるための体制整備および、移住者ケア活動を行う人材」として「地域支援コーディネーター」を平成31年度中の目標値として3名配置することとしている。

②「みがかれた地域に人が集まる。地域の差は地域みがきの差。地域をみがき、人々が輝き、内外の人を選びされる地域をつくる。地域をみがくとは、働き盛り世代の輝く場、高齢者世帯の安心できる場、子どもたちが戻ってくる場、地域外の人々のあこがれの場」であると明大の小田切教授が話している。

村では、集落支援員、地域おこし協力隊、地域づくり応援団を配置している。集落支援員は「集落住民自身が集落の現状とその課題について見つめなおし、集落の問題を自らの地域の課題としてとらえることを目指し、集落点検を実施し、集落の現状・課題・あるべき姿等についての話し合いを促進する」ことが活動内容の一つ。地区担当職員とも連携し、地域みがきに取組んでもらいたい。

## 問

定住の課題である住居について、①空き

家バンクの一層の推進を。②空き家を最小限の補修等して管理し、移住者用に準備してはどうか。

## 答

村長

①平成24年以降

降空き家バンクを活用しての成約数は8件、移住希望者のマッチングを積極的に支援していく。

②移住者用住宅は、ランニングコストなどのリスクがある。一定期間経過後、居住者に払い下げる方法等、研究してみたい。

なお、地域コミュニティを維持できるかが最大の課題。空き家を取得し、複数人で居住する共同住宅に改修するとか、村営住宅を整備するなど、移住定住の観点から必要に応じて検討する。

# グリーンシーズンの 観光について



高橋 正宏 議員

なども荒廃が進んでおり、村独特の景観が失われつつあることは事実。

**問** グリーンシーズンの観光はバリエーションや要望が多彩であるが、小谷村の観光資源は豊富で、山村の点在する民家は、周辺の田畑や山林と相まって、村の特徴的な観光資源と思われる。

①特に古民家の維持は、大変なので、観光資源としての義務を果たす代わりに、補助を考えられないか。

**答** 村長 過疎・高齢化、地理的な不便さで廃屋となっている古民家も多い。

また、古民家同様に、景観を維持する田畑（棚田）



保存が望まれる古民家

古くからの景観が観光資源になることは十分考えられるが、住民や、地域全体の意識や理解が必要であり、「観光資源」として価値のある古民家」の判断も難しく、場合によっては、個人や、地域に多大な迷惑も考

えられる。

修繕が必要であれば、リフォーム補助金を、集落全体で維持管理し景観整備をしていくような活動に対しては、村づくり補助金などで対応が可能。

**問** ②雨天や悪天候時の観光対策として、さまざまな体験ができる施設の確保や人材、その運営システムや対応はどうか。

また、新たな6次産業加工施設に、加工や調理の体験スペース、見学スペースを設ける考えは。

**答** 村長 抜本的な解決策は現状ではない。そば打ちや、わら細工などの体験も可能だが、当初からの準備が必要で、突発的には対応できない。

広域的に考えて、周辺市町村の施設との連携により雨天対応をしていきたい。

なお、新たな加工・貯蔵施設は、総合的な

利活用案として検討したい。

## 「村おこし塾」の再開を

**問** 地方創生や第5次総合計画が進む中、以前開催されていた、村全体を捉えた話し合いの場を設けた、「村おこし塾」のような講座や、機会の設定を検討できないか。

**答** 村長 「小谷流村おこし塾」は、地域おこしの機運を更に高め、村を挙げた地域おこしを目的に、平成25年度に、全9回開催し延べ173名が受講

した。

現在、国では地方版総合戦略に基づき、より具体的な事業を今後本格的に推進するにあたり、地方創生人材として「総合プロデューサー」「分野別プロデューサー」の人材育成が必要とされている。

このような国による人材育成の動きを見ながら、村としても集落・地域での話し合いと併せ、村全体として、集落・地域を超えてお互いに学び合うこと、さまざまなことを話し合うことは重要であり、地域おこしの第一歩と考えている。

小谷流村おこし塾のようなかたちがよいか、他のかたちがよいかなど開催方法を検討した中で、学びの場・話し合いの場を新たに設けたい。

**問** 新たな場の開催は、今年度中にできるか。

**答** 特産推進室長 今年度中に開催を予定する。



盛会の村おこし塾

# 空き家住宅の現状と 今後の対策



宮澤 正廣 議員

**問** 空き家調査と窓口の状況はどのようなになっているか。

**答** 村長 空き家調査については昨年度調査を実施し、外観目視などから空き家件数、148軒で、内居住可能な家屋48軒、補修が必要な家屋66軒、廃屋34軒を把握した。居住可能な家屋で売却できる家屋であるかは所有者の意向によるが、本年5月末現在で空き家バンクへ登録されている家屋6軒の内、売却を希望されている家屋は5軒となっている。前回平成23年度の空き家調査では空き家

件数124軒で、内廃屋35軒となっており、昨年度の調査状況と比較すると、人口減少と比例して空き家の軒数は年々増加している状況で、長年の未住居と豪雪地の地域条件等から、年々使用不可能な家屋として廃屋が増えることが危惧されている。

移住・定住に関する相談窓口として、空き家バンクの直近の相談状況を見ると平成27年度相談件数12件に対し、平成28年度は5月末現在で既に5件となっている。空き家バンクを再構築した平成24年度以降の成約件数では「平成24年度3件」「平成25年度1件」「平成26年度1件」「平成27年度3件」となっており、移住先のひとつとして小谷村への関心と、移住者の増につな

がっている。

課題として、全国的な状況と同様に小谷村においても居住可能な空き家として空き家バンクで紹介できる家屋の軒数が少ない状況であるため、空き家バンクの登録件数の確保と併せ、空き家を資源として捉えた取り組みとして、空き家を廃屋としない早い段階での所有者へのアプローチなど更



空き家の現状

また、広報・村ホームページ・ケーブルテレビによる村民への空き家バンク制度・居住交流の情報発信と、村外の移住を考えている方たちから、移住先とし

て全国の市町村の中から小谷村を選択していただけるよう、今年度内容を更新し発行する「移住ガイドブック」に移住・定住・住まい・暮らし・地域づくり・子育て・医療・福祉などの支援策を掲載するとともに、移住交流フェアへの参加、ホームページの作成、昨年度から進めている「おたりのわ」による地域支援・交流などにより、移住・交流施策を推進し、小谷村人口ピ

ジョンに掲げた「10年で9世帯」の移住者受け入れを実現する。

**問** 家財道具等にかかる処分補助制度の活用とお試し住宅の状況はどのようなになっているか。

**答** 村長 空き家財道具等処分補助金については、「空き家バンクに登録して入居者募集を行っている物件に入居があった場合、登録物件所有者または登録物件入居者に対し、登録物件の家財道具等を処

分するための費用を支援することにより、空き家バンクへの登録推進および移住希望者の移住が円滑に行えること」を目的に、対象費用の3分の2、30万円を上限に補助することとし、平成27年6月に創設した補助金だが、本年5月末までの活用実績はない。今後、小谷村への移住にあたっての生活基盤整備などからぜひ有効に活用いただければと考えている。

今年度、深原地区と土倉地区に整備する移住体験住宅については、現在物件所有者との公有財産取得に関する手続き等を進めており、国による「空き家対策総合支援事業」の補助金交付決定を受け次第、事業着手し、本年中には移住体験住宅として活用できるよう計画している。また、管理運営については、村が当面管理するが、将来的には指定管理者による管理運営を検討している。

# わたしのひまわり

## 梅池にきて

梅池北 丸山 理矢



次女とゴンドラにて

子どもの頃、毎年父に連れて行ってもらった大好きなスキー場。学生時代、基礎スキー同好会で、岩岳や八方口の宿のお手伝いをした事、群馬県のスキー学校にいたこともありました。寒いのが苦手な私がかかさかスキー場に住む事になるとは思ってもみませんでした。周りの方々のおかげで、雪が大好きな子ども達に元気をもらいながら、梅池に住み始めて16年が経ちました。

ゴンドラ乗り場近く「ク

ローシュ』は義父母が夢を

いっばいつめて、1970

年12月にオープンしたレス

トランです。お客様や、バ

イトの方々の思い出と共に

歩んできた店を、私も手伝

ってきました。毎年来てく

ださるお客様との会話が心

のエネルギーで、約100

日間、休日0で働き続けら

れます。どんな仕事も、誰

かの笑顔のもとになってい

る、喜んでいただけること

は一番幸せです。そんな笑

顔を受け取ることができる

のは、義父母が開店してく

れたから。私たちの意見に

耳を傾け、一緒に頑張って

くれました。携帯で、ご飯

や店内を写真に撮って広め

てくれるお客様もいらつし

やいます。いつまでも皆様

の笑顔が見られるよう「ク

ローシュ」を続けていきたく

と思います。

何もわからない私を、お

茶やお酒に誘ってくれた優しい近所のおじちゃんやおばちゃん達にも恩返しができるように頑張ります。

## もうすこし！

若栗 森川 昇



40年前、碓氷峠を通り、

学生スキーツアーで初めて

峰・若栗スキー場へ来て、

山々に魅せられ、生活拠点

をこの小谷村に見出し、家

族をつくり必死でマンマを

食ってきました。

人付き合いに恵まれ、時

には喧嘩し、蹴られ、泣き

笑い、波乱の日々でしたが、

魅力的な人たちと自然の中

で何とかここまで辿りつき

ました。

世の中の波の中、スキー・

テニスブーム等で村も活況

を呈し、開発も大々的にな

され、来村人口200万人

といわれた時代もありまし

たが、経済の激動、天地は

災害を持ち込み、圧倒的な

パワーで打撃してきます。

「備えあれば憂いなし」と

いうけれど、あまり備えて

息苦しく感じるのは「国家

安全保障」も同様、外に脅

威を与えても。でも抑止論

という考えもあって、なか

なか程度問題が難しいです

よね。バランスのとおり方が

難しい。

おっとイケナイ！でかい

ことを言うつもりはなかつ

たのですが。

小谷の人口は3千人位、

ちようど目配りが利く規模

と考えると、みんなで声を掛

け合って、あまり難しいこ

とは言わないで、パソコン

の力も借りるけど、血の通

った交流ができたらと思

う。メールもいいけど、生

声で電話、会話をしてみる

と、もっと分かり合えるの

ではないでしょうか？

## 編集後記

5月臨時議会において議  
会内構成編成替えを行い、  
6月の定例会や各種団体の  
総会等、新たな小谷村議会  
としての活動がはじまりま  
した。

議会だより編集委員会も  
新メンバーとなり気持ちを  
一新して、村民のみなさん  
により身近に、より親しみ  
やすく読みやすい議会だよ  
りになるように検討や試み  
を重ねていければと思っ  
ています。

海外ではイギリスのEU  
離脱問題、国内は参議院議  
員通常選挙や豪雨や地震に  
よる自然災害など日々激し  
く変わる情勢の中、我々小  
谷村議会もそんな動きに合  
わせ止まることなく、村民  
のみなさんの声を少しでも  
村政に反映できるよう、い  
つも笑顔で頑張っていきた  
いと思います。

(猪股 充広 記)